

## 令和7年度 ねりま協働ラボコラボチャレンジ 審査委員コメント

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 事業名  | もちつき大会から多文化共生の取り組み・まちづくり |
| 実施団体 | むつみ台団地自治会                |
| 連携団体 | UR コミュニティ東京北住まいセンター      |

### 1 協働の工夫・魅力

恒例行事である「もちつき大会」を起点に、多文化共生という新たなテーマを自然に組み込んだ点が、本事業の最も光るアイデアであると感じました。新規イベントを立ち上げるのではなく、既存行事を交流の場として再設計することで、参加への心理的ハードルを下げ、国籍や言語の違いを超えた自然な関わりを生み出しています。

また、自治会とUR コミュニティ東京北住まいセンターが役割分担し、自治会が交流の場づくりを、UR 側が情報提供・運営サポートを担った点も、協働の工夫として評価できます。翻訳チラシの作成や事前の声かけなど、片方の団体だけでは難しい対応を連携によって実現し、実効性の高い取組につなげている点に魅力があります。

### 2 成果・地域への波及効果

この事業により、外国籍住民と日本人住民が同じ場で楽しみながら交流し、顔見知りが増えたことは大きな成果です。言葉の壁を越え、笑顔や会話が生まれたことで、団地全体の雰囲気明るくなり、地域への安心感や親しみが醸成されたことがうかがえます。

また、準備や運営に新たに関わる住民が現れ、自治会活動への関心が高まった点も、地域コミュニティの活性化という観点で重要な波及効果です。こうした取組は、他の団地や地域においても「恒例行事×多文化共生」という形で応用可能であり、横展開の可能性が高いモデルであると評価できます。

### 3 次への期待

今後は、もちつき大会に限らず、各国の食文化や生活習慣を紹介する企画へと発展させることで、交流が一過性に終わらず、継続的な関係づくりにつながることを期待します。また、防災や生活ルールの共有といった実生活に直結するテーマを交流の中に組み込むことで、外国籍住民がより安心して暮らせる環境整備にも寄与するでしょう。

あわせて、参加者の声や気づきを簡単に記録・共有する仕組みを設けることで、事業の成果が可視化され、次年度以降の改善や他地域への展開にも役立つと考えられます。

### 4 自由記述

まず一緒に楽しむという姿勢を大切にしながら、多文化共生という重要な課題に取り組んだ点が非常に印象的でした。無理に交流を促すのではなく、行事の中で自然に会話や笑顔が生まれる構成は、地域づくりの好事例だと感じます。

住民一人ひとりの小さな関わりが、団地全体の雰囲気を変えていく力を持っていることを示す取組であり、今後の継続と発展を応援しています。